

表紙の人

CHUO UNIVERSITY
Knowledge into Action

行動する知性。
中央大学

大
學

巨人

紫
誓

鋤
原

行動する知性。
中央大学

大
學

中央

CHUO UNIVERSITY
Knowledge into Action

行動する知性。
中央大学

知性。
中央大学

CHUO UNIVERSITY
Knowledge into Action

行動する知性。
中央大学

行動する知性。
中央大学

大
學

CHUO UNIVERSITY
Knowledge into Action

行動する知性。
中央大学 CHUO UNIVERSITY 行動する知性。
中央大学

ドラフト1位指名獲得

のグラブに った親孝行

拓也投手(法4)

中央大学硬式野球部のエース、鍛原拓也(くわはら たくや)投手(法4)は10月26日に行われたプロ野球ドラフト会議で、巨人から1位指名を受けた。中大選手の巨人1位指名は2000年の阿部、2010年の沢村両選手以来3人目。

鍛原投手はドラフト会議の進行を伝えるテレビの生中継を満座の中で見ることにした。記者会見場として用意されたのは多摩キャンパスCスクエア2階中ホール。会場中央の客席に座った。

目の前にはマスコミのテレビカメラ8台、カメラマン10人。指名球団が決まった「その瞬間」を捉えようと準備を整えている。カメラの放列の向こうに、テレビ画面を映す特設の大型ビジョンがある。

不本意な結果になる場合も想定されたが、中大のエースは意を決し、カメラの前に座った。

3年春の1・2部入れ替え戦。負ければ2部転落の危機を第1戦に先発して完封勝利、チームを勢いづけた。

強気で打者に向かっていくタイプ。ピッチングさながらの肝っ玉ドラフトだ。

午後5時14分、東京都内のホテ

ルのドラフト会場で、指名選手を公表する入札が始まった。

高校球界の強打者、清宮選手(早稲田実)に7球団。日本ハムが当たりくじを引き、交渉権を獲得した。中村捕手(広陵)には2球団。抽選で広島に決定。この後、1位指名選手を外した球団による再度の入札が繰り返される。1位指名が決まらない3球団による3度目の入札だった。



『読売 鎌原拓也 投手 中央大学』とのアナウンスが流れた。同5時41分。Cスクエアは「ウオーツ」という大歓声に包まれた。同席した野球部員は大喜びだ。会場が沸き立ち、興奮が続く。

注目の鎌原投手はほとんど無表情だった。乾いた唇をなめた程度。隣席の清水達也監督と固い握手した次の瞬間、笑みがこぼれた。

「ずっと名前を読み上げられるのを待っていました。く、く、鎌原と。もしかしたら指名されないのかもしれないのかと不安でした。名前を呼ばれたときは頭が真っ白になってしまい、名前の最後まで聞き取れませんでした」

待つこと27分間。短いようで長い長い27分間だった。

記者会見が始まる。会場内の客

席からひな壇へ。マスコットキャラクターのチュー王子も喜んでい。会見の司会進行は野球部マネジャーの塚原千晶さん(経4)だ。

ドラフト指名投手は、塚原さんの問いかけに答えていく。

「伝統ある、強いチームから1位指名されて本当に良かった。指名されてホッとしています。目標は開幕1軍、1軍に定着すれば新人王が見えてくると思います」

堂々たる新人王獲得宣言である。「得意球はまっすぐとシンカー。2つのコンビネーションで戦っていきます」

スリークォーターから最速152km/hのストレートを投げ込む。打者のひざ元で沈む球のシンカーが2種類ある。高低差をつけた投球が持ち味。三振を取れるピッチャーだ。

東都屈指の本格派右腕

今春、東都大学リーグ戦の東洋大戦では奪三振14の完封勝利。プロ野球スカウトの目を奪った。春季は43回1/3で51奪三振と存在を大いに示した。

1年春から登板した。救援が多く、先発に起用された3年生から頭角を現した。通算44試合・11勝13敗、防御率3・38。

シンカーのお手本はソフトバンク・摂津、ロッテ・石川両投手。動画を何度も見て、投げ方やボールの握りなどを研究したという。決め球を持つ摂津投手は5年連続、石川投手は3年連続の2けた勝利を記録した。

会見終了後は撮影タイムだ。中大ボードを背に。グラブとボールを持って。さらに投球フォームなど。カメラマンの相次ぐリクエストに笑顔で応える。

次は部員による肩車と胴上げ。胴上げは最初3回舞い、2度目は5回。天井に触れるほど高く上がった。

「自分の人生が決まる場に野球部のみんなが立ち会ってくれて、心から喜んでくれた。いい仲間と部員をうれしく思います」

撮影はまだまだ続く。部員らと集合写真。壇上で先ほどエールを受けた応援団リーダー部、同ブラスコア部、同チアリーディング部のメンバーと記念の1枚。

ほほえましく見守っていた清水監督の携帯電話が何度も光る。お祝いコールだろうか。場内は祝賀ムード一色だ。

お母さん、ありがとう

撮影用にと差し出された色紙に

迷わず書いたのは「親孝行」。紫色のグラブには「親孝行」と縫い付けである。記者が矢継ぎ早に質問する。

「グラブの色の紫は母が好きな色です。自分が3歳の頃から女手一つで育ててくれました。貯金を崩してまで、僕に野球を続けさせてくれた。随分迷惑をかけています。今年は勝負の年だと1月から頑張ってきました」

「プロ入りは子どもの頃からの夢。あとで母に電話して「夢がかなったよ」と言います。きのうの母は「ドキドキしている」と心配していたから、きっと喜んでもらえると思います」

「これから親孝行ができます。1軍で活躍しているところを見せたい。目標は菅野投手です」

記者に囲まれ、ぼつぼつと話したのは少年時代の述懐だ。小遣いとは縁がなかった。中学に入った頃から親にモノをねだったことはなく、消耗品ともいえるグラブは中学3年間、手元の1つで済ませた。修理を何度したか分からないという。

プロ入りして活躍すれば、安定した暮らしが予見される。ドラフトの秋へ。体をさらに鍛え、持ち球を磨いた。正月からいっそう奮起した理由がここにあった。

野球を始めたのは小学2年生。阿部選手のホームランをテレビで見てからだ。「カッコええなあ、僕もプロ野球選手になりたい」。中大一巨人への道はここから始まったのか。

巨人に在籍する中大OBは阿部、亀井、沢村各選手のほか、会田・3軍投手兼任トレーニングコーチ。球団職員にも中大の先輩が複数いる。

「大先輩たちに勉強させて頂きながら、任されたところで頑張ります。200勝が目標です」

176センチ、77キロの体に、母譲りのファイトがいっぱい詰まっている。



PROFILE

- ▽巨人の背番号 29
- ▽体 右投げ右打ち。176センチ、77キロ
- ▽球歴 奈良県の中学時代、中学硬式野球の日本一を争う「ジャイアンツカップ」で3位。所属チーム・橿原機械城ワルシニアの1年後輩に巨人の岡本選手。高校は福井市の北陸高。甲子園出場はなし
- ▽座右の銘 「感謝」
- ▽1996年3月26日生まれ、家族は奈良県で暮らす母と妹
- ▽ゴルフ 初ラウンドは109、大学3年夏から始めた。

□めまぐるしい1日

鎌原投手の巨人1位が告げられる直前、会見場がどよめいた。生中継するテレビのほかに別の情報源があるのか。自らのスマホで確認する人が散見された。

東都秋季リーグで1部残留のライバル、日大が敗れ、日大の最下位が決まった。中大は5位にとどまり、入れ替え戦を免れた。野球部員は目の前のドラフト、神宮球場の日大一国学院大戦と気配りが大変だった。

清水達也・中央大学硬式野球部監督の話

■入学当初からプロを見据えて努力の日々

「入学時から期待していました。エースになればリーグ戦で3連投もある。今から心と体を鍛えようと1年生の頃から、そう話してきました」

勝つピッチングとは何か？ 勝つためにすることは？ 彼はよく考えています。

3年春から、それまでの中継ぎや抑えから先発に入り、自覚が出てきました。体重は8キロ増えた。投手のリーダーとして体幹トレーニングなどの練習メニューを考え

る。食事面でも栄養学を勉強しています。

プロ野球は入ってからが勝負です。1軍定着、ローテーションピッチャーになれるよう、いっそう頑張ってもらいたい。中大の4年間を誇りとしてプロに飛び込んでほしい。期待しています」

(中大OBで前コーチ。今年2月、中大監督に復帰した。埼玉・上尾高で選抜高校野球甲子園大会出場、社会人野球の河合楽器では都市対抗に11年連続出場)



記者会見の 司会進行役は エースを支えた マネジャー



鎌原投手がドラフト指名を待つ記者会見で際立ったのが、司会を務めた硬式野球部マネジャーの塚原千晶さん（経4）だ。終始落ち着いたアナウンスで、取材していた民放アナウンサーらをうならせた。

都内でドラフト会議が始まる12分前、記者会見場のCスクエアのステージに塚原さんが登壇した。中大のエースがどの球団から指名されるか。集まったマスコミは27社・約60人。中大野球部員も全員参加した。場内はざわついた雰囲気だった。

壇上左端が司会席だ。「本日はお忙しいなか、ご参加いただき、ありがとうございます。司会を務めさせていただきます～」

自己紹介、続いて開会のあいさつ。この日の予定、ドラフト取材終了後に記事を書く施設利用のガイド、地震発生時の避難誘導などを分かりやすく案内していった。

落ち着いたアナウンスは、一言ひとことが聴衆の耳にきちんと届く。

場内はいつしか平静を取り戻していた。一時降壇し、舞台のそでに下がる。休むこともなく、用意した原稿を下読みし、目を閉じてアナウンス文をそらんじていた。

巨人が鎌原投手を1位指名した。野球部員らの喜びは地面を震わせるようだった。冷静な塚原さんは「これから記者会見の準備をいたします。しばらくお待ちください」と、ややゆったりとした口調で待望のインタビューへといざなった。

壇上に鎌原投手、清水監督、星野野球部副部長が並んだ。中大からは7年ぶりの巨人ドラフト1位だ。大勢のカメラマンが焦点を合わせる。

司会者が、事前にマスコミから寄せられていた質問を読み上げた。

「指名された気持ちや感想をお願いいたします」

鎌原投手は興奮気味だったが、顔なじみの問い掛けに応じるうち、いつもの優しい笑顔になっていく。すぐにも始まるマスコミ取材を前に、エースとマネジャーによるウォーミングアップのようだった。

「清水監督より、ひと言お願いいたします」

「清水監督、ありがとうございます。皆さまからのご質問をお受けいたします」

会見がよどみなく流れる。居合わせた民放アナウンサーが「うまいわね」と感心する。「良かったよ」とはテレビカメラマン。日頃、司会者やアナウンサーの進行をレンズ越しに見ているだけに「良かったよ」

の一言に重みがある。

気持ちはいつもみんなと一緒に

合格点で務めを終えた。「ミスは許されない。間違えたらどうしよう」。数日間続いた不安は霧消して、とびきりの笑顔になった。壇上では超然としていたが、本音は喜びに湧く部員の輪に飛び込んでいきかけたという。

「4年生がみんな喜んでいてのを見て私もうれしかった。みんなが頑張ったからリーグ戦の1部にいられる。神宮の場内アナウンスができるのも選手のおかげです」

司会進行の大役は野球部男子マネジャーからの推薦だった。寮の清掃から神宮球場(東都大学リーグ戦)での試合進行アナウンスまで。あらゆる機会を通じて、部を昨日より少しでも良くしようと、ひたむきに取り組んだ4年間の言動を部員

はみていた。

茨城・常総学院高校では駅伝選手だった。印象に残っている大会がある。1年生で出場した関東大会(神奈川県)、アンカーの前の大事な4区を任された。

中大入学時に思った。「新しいことに挑戦したい」。模索している彼女に高校の先輩の中大2年生から硬式野球部マネジャーの勧誘を受けた。

高校時代からマネジャーに感謝していた。選手の気持ちを分かってくれる。心身ともに支えてくれた。「今度は私が部や選手をバックアップしたい」

父親がプロ野球ファンで、一緒になってテレビ中継を見ていた。スコアは付けられる。1年生の秋には、この日と同じCスクエアでのドラフト会見に立ち会い感動した。3年生になると、3年生対象の活動である神宮球場・場内アナウンスの

チャンスを得た。

アナウンスがとても好評だ。大学野球日本一を決める全日本大学選手権(今年6月・神宮、東京ドーム)に東都大学野球連盟から派遣された2人のうちの1人。全国各連盟選出の学生たちと共にレッスンを受けた。

技術力と表現力が認められ、東京ドーム開幕戦を務めた。開幕に投げるエースの評価である。

東都の秋季リーグ戦を6試合担当した。残り試合の日程がドラフト会見の最中に決まった。ドラフト翌日の第1試合だ。

「鏑原投手の喜び。私も喜びたいけど、さすが最終戦、最後のアナウンスだと思うと気は抜けません」

10月27日、思い出がいっぱい詰まった神宮球場。アナウンス室にも思い出が数多くある。新しいことに挑戦した4年間。その最後の最後まで挑戦し続けた。

万感をこめた試合時間・2時間22分、最後のゲームセットを告げた。活動もこれで終わり。マイクから離れると感傷的な気持ちになった。

「ベンチの4年生、スタンドにいる4年生にも“4年間、お疲れさま”という思いを込めて、聞き取りやすいアナウンスを心がけました。終了直後は寂しさがこみ上げて泣いてしまいましたが、素晴らしい仲間との出合いや思い出を糧にして、今後の自分に、もっと頑張れとカツを入れました」

全日程を終え、すべての4年生は神宮球場正面前で記念撮影に応じた。いわば卒業写真である。塚原さんは背筋を伸ばし、学生生活最良の笑顔でシャッターを待った。



終始笑顔の指名あいさつ

鎌原投手は11月8日、東京・市ヶ谷の中大市ヶ谷田町キャンパスで巨人・岡崎スカウト部長らの「指名あいさつ」を受けた。

ドラフト会議での緊張感はなく、終始笑顔だった。中大OBで巨人の沢村投手と会ったことを明かし、「来年からはチームメイトだ、頑張れよ」と言っていたきました」とうれしそうに話した。「体をイチから鍛え直して、将来は球界を代表するピッチャーになりたい」と抱負を語っ

た。

インタビューのなかで、「絵を描くのも好きです」と答えるとカメラマンから、巨人の Mascot「ジャビット」を書いてください、とお願いされた。「初めて即興で描きました」と照れていたが、なかなかの腕前に会見場には「ホーッ」と感心する声が漏れた。

絵心あり、と感じたのは小学6年で描いた「ブルドック」。観察眼は打者攻略に通じるのだろう。



巨人の岡崎スカウト部長(左)から指名あいさつを受ける鎌原投手

